

第3章

調査結果の活用

学校における分析等が効果的かつ円滑に行えるよう、分析方法の例を作成しました。

- ① 各学校の実態を把握する
- ② 分析を行う
- ③ 仮説を設定する
- ④ 検証を行う

調査結果から、各学校の実態を把握し、分析を行うことで課題等を踏まえた仮説を設定し、その仮説に基づく取組によって検証を行うといったP D C Aサイクルの確立につなげてください。

1 個人結果票について

事務連絡（令和4年8月22日付け）

学級担任用

令和4年度埼玉県学力・学習状況調査



個人結果票の活用について

県教育委員会では、県内公立小・中学校の小学校4年生から中学校3年生までの児童生徒一人一人の学力の経年変化（学力の伸び）を把握するために、平成27年度から県学力・学習状況調査を行っています。

「個人結果票」は、児童生徒一人一人の調査結果を、児童生徒や保護者、先生方にお知らせするものです。

先生方におかれましては、児童生徒一人一人のつまずきを早期に発見し、その解消を図ることができるよう御活用ください。

【昨年度、調査を未実施の場合の児童生徒の個人結果票「今までの学力の変化」について】
昨年度の学力のレベルは表示されません。御留意ください。

1 個人結果票の返却及び活用の流れ

返却前

○ 個人結果票に、各学校で保管している個人番号シール票をもとに、組、出席番号、名前を記入する。

※ この作業を間違えると、児童生徒に誤った結果が返却されることになります。間違いがないか十分に確認してください。

返却時

児童生徒には

- 本調査の特徴を伝えます。
 - ・「学力の伸び」が分かる調査であること
 - ・現在の「学力のレベル」が分かる調査であること
- 一人一人の1年間のがんばりや伸びを認め、まずはほめ、その後苦手領域を中心に家庭学習をするよう言葉かけをします。
- 今後の学習計画に対するアドバイスをします。

保護者には

- 可能な限り時間をかけて、お子さんのよさや課題を伝えます。
- 伸びたところをほめるとともに、苦手領域を中心に家庭学習を行うよう伝えます。
- 家庭学習には、県のホームページから本調査の「復習シート」をダウンロードして活用できることを伝えます。

埼玉県学力・学習状況調査 復習シート

検索

※ この結果を今後の学習に生かせるよう、
できる限り早く返却いただけるよう御協力をお願いします。

埼玉県教育委員会

2 個人結果票の見方について

【個人結果票 1 ページ】

1 ページには、**2・3 ページの、教科に関する調査結果の見方**が掲載されています。

また、**それぞれの学力のレベルで正解できる問題の例**が掲載されています。各教科とも調査問題の出題範囲は前学年の内容です。参考にしてください。

【個人結果票 2・3 ページ】

国語

あなたの学力は、「レベル8」の中で伸びがまりました。

レベル	小学校4年生	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生	中学校3年生
レベル12						
レベル11						
レベル10						
レベル9						
レベル8						
レベル7						
レベル6						
レベル5						
レベル4						
レベル3						
レベル2						
レベル1						

学習に関するアドバイス

あなたの国語の学力は、前年度1年間の学習により、着実に伸びています。自分の努力に自信を持ち、今後も学習に取り組んでいきましょう。授業への取り組み方や学習習慣を見直し、改善することで、さらに大きく伸びることが期待できます。

話すこと・聞くこと、書くことはよくできました。さらに力を伸ばすために、話し合いをする際にはお互いに手本を話し、複数の意見を述べながら聞き、相違点をまとめたり、発言目的に合っているか考えたりしながら、話し合いを上手に進めましょう。書く際には、記録文や報告文、手紙などのいろいろな形で伝えたいことが表現できるように心がけるとよいです。

また、文章を読む際は、積句やことわざなどを探してまとめたり、いくつかの文節で構成されているか意識したりすることは、力を伸ばすことにつながります。集めた言葉については、話し方や書いたりするときに使うことでしっかり身に付けるように心がけましょう。

今回の結果を参考に、照ホームページの「復習シート」を活用して、さらに自分の力を高めていきましょう。

数学

あなたの学力は、「レベル6」の中で伸びがまりました。

レベル	小学校4年生	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生	中学校3年生
レベル12						
レベル11						
レベル10						
レベル9						
レベル8						
レベル7						
レベル6						
レベル5						
レベル4						
レベル3						
レベル2						
レベル1						

学習に関するアドバイス

あなたの数学の学力は、前年度1年間の学習により、着実に伸びています。自分の努力に自信を持ち、今後も学習に取り組んでいきましょう。授業への取り組み方や学習習慣を見直し、改善することで、さらに大きく伸びることが期待できます。

数式式の学習においては、正確に計算するとともに、その計算の意味を理解することが大切です。3年生では平均数や学習や文章を使った問題を解いたり理解したりする学習をするので、これまで学んだ数や式の意味や計算の仕方を生かして考えましょう。

また、資料の活用や学習においては、資料を集めて整理し、その傾向を読み取って判断できるようにすることが大切です。3年生ではデータの一部分を調べ、データ全体の傾向を考える学習をするので、調査方法や結果について、日常生活と関連させて考えましょう。

今回の結果を参考に、照ホームページの「復習シート」を活用して、さらに自分の力を高めていきましょう。

英語

あなたの学力は、「レベル7」の中で伸びがまりました。

レベル	中学校2年生	中学校3年生
レベル12		
レベル11		
レベル10		
レベル9		
レベル8		
レベル7		
レベル6		
レベル5		
レベル4		
レベル3		
レベル2		
レベル1		

学習に関するアドバイス

あなたの英語の学力は、前年度1年間の学習により、着実に伸びています。自分の努力に自信を持ち、今後も学習に取り組んでいきましょう。授業への取り組み方や学習習慣を見直し、改善することで、さらに大きく伸びることが期待できます。

書くことは、他の領域に比べて、よくできました。さらに書く力を伸ばすために、新出単語や教科書の基本文・本文などを活用しながら、日常の出来事や自分の考え、気持ち、その理由などについて、ALT等に書いた手紙や日記、感想文を積極的に書いてみましょう。必要に応じて、辞書なども活用しましょう。

また、英語で話されたことについて聞き取る力を高めるために、授業では先生やALTの先生の話す英語や友達との発表をどのようにかかっているのか、話した内容を日本語や英語でメモする習慣をつけましょう。すべての英語が分かるからなくても、聞かされた言葉やメモから、どんな感想文のかかつかつむように意識しましょう。

今回の結果を参考に、照ホームページの「復習シート」を活用して、さらに自分の力を高めていきましょう。

中学校3年生の例

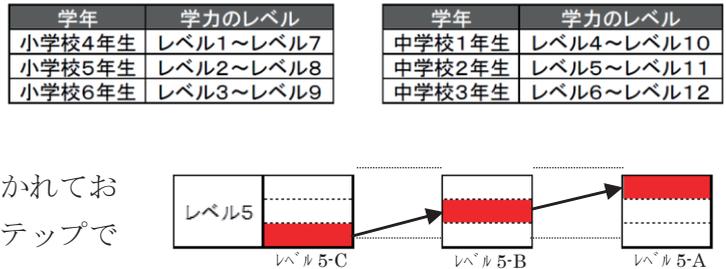
※ 個人結果票は、【小学校4～6年生用】【中学校1年生用】は国語と算数・数学の2教科、【中学校2・3年生用】は国語・数学・英語が掲載されています。

(1) 学力のレベルなどの見方について

学力のレベルを赤いバーの位置で表しています。学力のレベル表記は全部で12段階ありますが、測定は各学年7レベルの間で行っています。例えば、中学2年生の測定範囲は、レベル5からレベル11になります。

1つのレベルは、それぞれ3層に分かれており、同じレベルの中でも、スモールステップで学力の伸びがわかります。

例えば、同じレベル5の中でも、学力のレベルが高くなるとバーの位置が変わります。
※前学年での赤いバーの位置と、今回の赤いバーの位置を比べると、学力の変化がわかります。



(2) **今までの学力の変化** について

「児童生徒の学力の変化」について、次のような形でコメントを記載しています。

例： **あなたの学力は、「レベル11」まで伸びました。**

コメントは、次の①～⑧のパターンがあります。

	児童生徒の学力の変化の状況	表示されるコメント
①	学力が伸びて、レベルが上がった場合	あなたの学力は、「レベル〇」まで伸びました。
②	同じレベル内で、伸びがあった場合	あなたの学力は、「レベル〇」の中で伸びがありました。
③	学力の位置が前年度と同じだった場合 学力の位置が前年度より下がった場合 (スモールステップでレベルが1つ下がった場合を含む)	あなたは、「レベル〇」の学力があります。 (〇はR 3の児童生徒の学力レベルの数字)
④	2つ以上レベルが下がった場合 正答数が0問であった場合 (学力のレベルの は表示されません)	学校の先生等と、学習などについて相談をしてみましょう。
⑤	全ての調査問題に正答した場合	あなたの学力は、レベル〇以上になりました。 (〇は当該学年での最高レベルの数字)
⑥	本年度の調査は実施したが、昨年度の調査を未実施の場合	あなたは、「レベル〇」の学力があります。 (〇はR 3の児童生徒の学力レベルの数字)
⑦	本年度調査の一部教科を未実施の場合 (昨年度実施・未実施の場合とも)	未実施教科：本年度の調査を受けていないため、今回の学力のレベルは表示できません。 (実施教科については①～⑥の状況に応じたコメントが表示されます。)
⑧	本年度の調査を全教科未実施の場合 (個人結果票の返却はありません)	—

※個人結果票を返却する際のお願い

【①②⑤の場合】(「学力の伸び」が見られた場合)

- ・本調査のねらいを実現できるよう、学力の伸びた教科について、**児童生徒一人一人の1年間のがんばりを認め、ほめる**言葉かけをお願いします。
- ・その際、「教科の領域等別正答率」や「県全体の正答率分布」なども参考にしながら、**よさを具体的にほめる**よう心がけてください。

【③④の場合】(学力の位置が前年度と同じ、または前年度より下がった場合)

- ・伸びている他の教科や、「教科の領域等別正答率」「県全体の正答率分布」を参考に、**よいところをほめる**ことを中心に言葉かけをしてください。
- ・学力が前年度と同じか下がっている児童生徒については、「授業への取組」「学習習慣」「生活習慣」などにつまずきや悩みがある可能性があります。**個々の学習方法や生活上の悩みを聞き取る、教育相談などを行う**ことで、児童生徒の状況を把握し、助言し、その後の取組等を見届けるなど十分な支援をしてください。

【⑥の場合】(昨年度未実施の場合)

- ・「教科の領域等別正答率」「県全体の正答率分布」を参考に、**よいところをほめる**ことを中心に言葉かけをしてください。

【⑦の場合】(今年度一部未実施の場合) 実施教科について、①～⑥に準じてください。

【⑧の場合】(今年度全教科未実施の場合)

- ・個人結果票はありませんが、日常の授業等ががんばっているところ等、ほめることを中心に言葉かけをしてください。

(3) **学習に関するアドバイス** について

アドバイスは3段構成になっています。

例：「同じレベル内で、伸びがあった場合」のコメント

あなたの数学の学力は、昨年度1年間の学習により、着実に伸びています。自分の努力に自信を持ち、今後も学習に取り組んでいきましょう。授業への取り組み方や学習習慣を見直し、改善することで、さらに大きく伸びることが期待できます。

図形は、大変よくできました。図形の学習は、平行線の性質など今まで学習した性質を使い、いろいろな視点から考えることが大切です。3年生では相似な図形の学習があるので、図の中に含まれるいくつかの性質を関連させて考えを深めましょう。

また、関数の学習は、式から交点を求めたり、式をグラフに表したりする問題ができるようになることが大切です。3年生では放物線の学習があるので、分かっていることを、式・表・グラフと関連させ、ていねいに取り組みましょう。

今回のあなたの学力レベルを参考に、県ホームページの「復習シート」を活用して、さらに自分の力を高めていきましょう。

①

②

③

- ・①では、児童生徒の学力の状況について説明し、「学力の伸び」を認めるコメント、授業や学習習慣などへのアドバイスを記載しています。
- ・②では、領域等別に、今後どのような学習がさらに効果的であるかを記載しています。
- ・③では、復習シートの活用を促しています。

「学力レベルが前年度と同じだった場合」「学力レベルが前年度より下がった場合」については、「必要に応じて、学校の先生やご家族の方と相談してみるのもよいでしょう。」などのコメントを記載しています。児童生徒の現状や要望に応じて**面談などを行い**、つまずきや課題を共有しつつ、よいところを認め、子供たちが自分をさらに伸ばし、自分のよさを生かしていけるよう働きかけましょう。

(4) **教科の領域等別正答率** 及び **県全体の正答率分布** について

- ・「教科の領域等別正答率」には、領域ごとの正答数、設問数、正答率を県全体の平均も併せて記載しています。レーダーチャートの実線（）は児童生徒の正答率、網掛け（）になっている部分は、県全体の平均正答率となっています。学力の変化の状況以外に、児童生徒のよさを認める際の参考としてください。
- ・「県全体の正答率分布」は、人数を横軸とした県全体の分布を棒グラフで示しています。当該の児童生徒が含まれる集団を表す棒グラフの色を  として、県全体におけるおおよその位置が分かるようになっています。ただし、**本調査の目的は、児童生徒一人一人の「学力の伸び」や変化を把握してよさを伸ばしていくこと**にありますので、県全体の中での位置に重きを置いた働きかけや指導は控え、あくまで**参考として御活用ください。**

【個人結果票4ページ】

(5) 「質問紙調査の結果～規律ある態度の達成目標～」について

- ・規律ある態度の達成目標について、児童生徒の回答状況を示しています。
- ・面談等において**よいところを認め、ほめる**材料にしてください。

(6) 自由記述欄の活用について（例）

- ・今後の学習計画や取組などについて児童生徒が記入する。
- ・保護者等に、がんばりを認めたり励ましたりするコメントを記入してもらう。
- ・学級担任が、児童生徒のがんばりなどを認めるコメントを記載しておく。

2 調査結果の分析・活用について①（学校担当者用）

事務連絡（令和4年8月22日付け）

学校担当者用

令和4年度埼玉県学力・学習状況調査

調査結果の分析・活用について



本調査は、本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進することを目的としています。

各小・中学校におかれましては、調査結果から、①各学校の実態を把握し、②分析を行うことで課題等を踏まえた③仮説を設定し、その仮説に基づく取組によって④検証を行うといったサイクルの確立につなげていただけたらと考えています。

県教育委員会では、各小・中学校における分析等が効果的かつ円滑に行えるよう、分析・活用の例を作成しました。各小・中学校におかれましても、独自の分析等と併せて御活用ください。

分析・活用の手順

分析

①学年全体の学力の伸びを把握し、分析する。→【帳票28】

- ・学年別、教科別の学力の伸びの様子がグラフで示されています。
- ・県の学力の伸びの様子と比較して特徴が見られる部分を確認します。

②学級の学力の伸びを把握し、分析する。→【帳票42】

- ・帳票を前年度の学級ごとに並べ替え、「学力の伸びの平均」や「学力を伸ばした児童生徒の割合」が計算されています。
- ・学校全体で良い取組を共有することを目的とし活用します。学力の伸びが見られた学級や教科を確認します。

活用

○学力を伸ばした先生が行っている効果的な取組を学校全体で共有する。

- ・学力を伸ばした学級や教科の担当者からの聞き取りや、学力を伸ばした教員の授業参観等を行い、効果的な取組を共有します。

その他

分析支援プログラムを活用し、さらに課題を見付け改善を図る。→【帳票11】

- ・「学力」「学力の伸び」「学習方略」「非認知能力」「生活習慣」等の関係から、自校の成果や課題を見付けます。

埼玉県教育委員会

【帳票28】を活用した分析

分析①

学年全体の伸びを把握し、分析する。

○【帳票28】「各実施主体の調査結果票」から自校の概要を捉える。

→ 「平均学力レベルの状況」や「学力階層別の状況」を分析する。

(1) 平均学力レベルの状況

【分析①】学力の伸び幅の違い

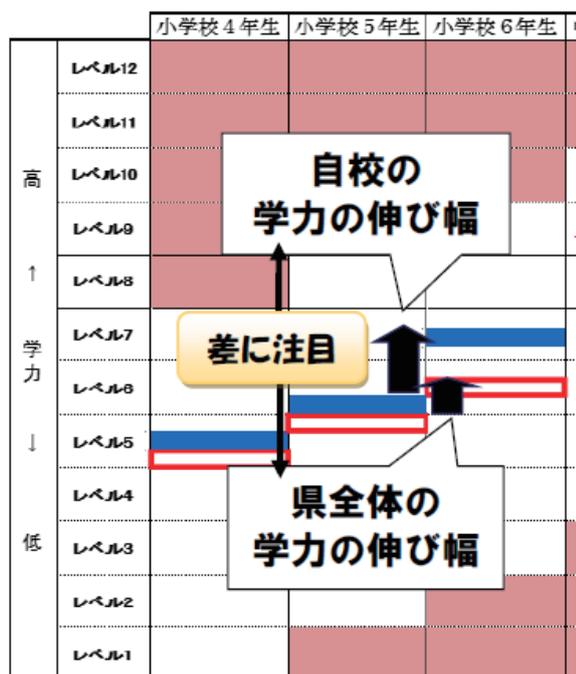
→ 伸び幅が県平均よりも大きい学年や教科を見付ける。

【分析②】学力レベルの違い

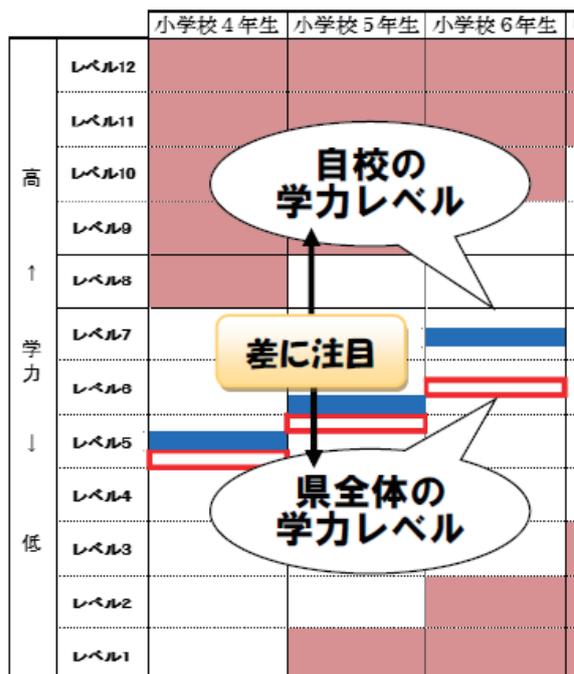
→ 学力が県平均を上回っている学年や教科を見付ける。

→ 学力が他学年の同時期を上回っている学年や教科を見付ける。

【分析①】学力の伸び幅の違い



【分析②】学力レベルの違い



※【帳票27】では、異なる年度の同学年と、学力のレベルを比較することができます。

※【帳票33】では、学力を伸ばした児童生徒の割合や、学年全体の学力の伸びが分かります。



「伸び幅が大きい」、「学力のレベルが高い」といった学年や教科は、効果的な指導や取組を行っている可能性があります！

(2) 学力階層別の伸びの状況

【分析①】 学力層別の学力の伸びの状況

→ 各学年の中で傾きが大きい学力層を見付ける。

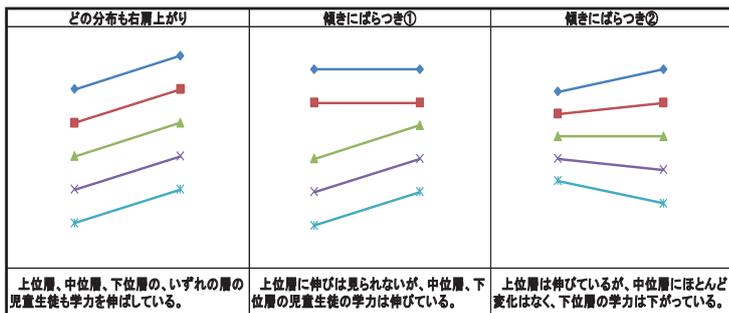
【分析②】 埼玉県のグラフの傾きとの比較

→ 県平均よりグラフの傾きが大きい学年や教科を見付ける。

【分析③】 各学力層の学力レベル

→ 県と比較して、学力レベルが全体的に高い／低い、学力階層によってレベルが高い／低いなどの傾向を見付ける。

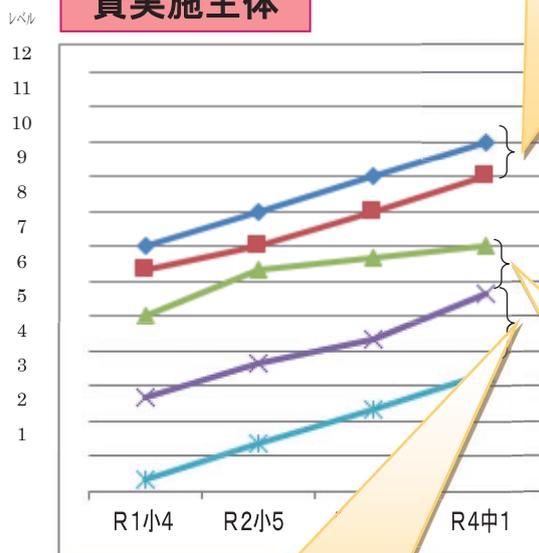
<グラフの見方>



- ◆ ⇒ 最大値(最も学力が高い児童・生徒が属する学力レベル)
- ⇒ 75%値(学力の高い順に並べたときに、上から数えて25%にあたる児童・生徒が属する学力レベル)
- ▲ ⇒ 中央値(学力の高い順に並べたときに、上から数えて50%にあたる児童・生徒が属する学力レベル)
- × ⇒ 25%値(学力の高い順に並べたときに、上から数えて75%にあたる児童・生徒が属する学力レベル)
- * ⇒ 最小値(最も学力が低い児童・生徒が属する学力レベル)

分析例

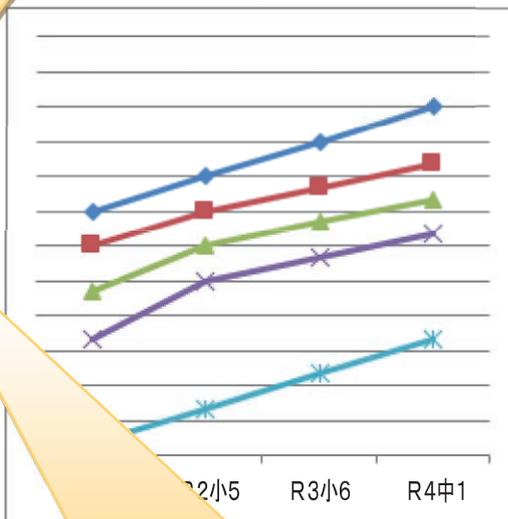
貴実施主体



下位層のグラフの傾きが
県のグラフより傾きが大きい
⇒ 下位層への充実した支援が
あったのではないかな。

学年の中で上位層の学力のレベルが高い
⇒ 上位層を伸ばす工夫があったのではないかな

埼玉県



中位層の学力が伸び悩んでいる
⇒ 前学年でのつまずきがあるのではないかな。

※【帳票26】では、各学年・各教科の「学力の伸びの状況」を一覧で見ることができます。

【帳票42】を活用した分析

分析②

学級の学力の伸びを把握し、分析する。

○ 【帳票42】学力分析データ（前年度在籍クラスを基準にした学力の伸び・学習方略・非認知）クラス別

→ 前年度の「学力の伸びの平均」や「学力を伸ばした児童生徒の割合」を分析

分析例

令和4年度埼玉県学力・学習状況調査(旧小学校5年生)

学力分析データ(前年度在籍学年・クラスを基準にした伸び・学習方略・非認知)

●●市立●●小学校

※各数値は、R3、R4調査をともに実施した児童生徒を集計対象としています。
 ※R3児童生徒数は、昨年度質問紙を含むいずれかの教科を実施した児童生徒の数を表しています。
 ※学力を伸ばした児童生徒は、「学力レベル(3分割)」を数値化(例:1-Aは"1", 12-Aは"36")したとき、昨年度より数値が1以上増加している児童生徒となります。
 ※学力の伸び率(学力レベルの差の平均)については、集計対象となる児童生徒の「学力レベル(3分割)」を数値化(例:1-Aは"1", 12-Aは"36")して計算しています。
 ※「主体的・対話的で深い学び」や「非認知能力」の数値の範囲は1.0～5.0となっており、数値が高いほどよい値となっています。

R3 学年	R3 組	R3児童生徒数	学力を伸ばした児童生徒の割合(N)		学力の伸び率 (R4学力レベルとR3学力レベルの差の平均)		R4学力レベル平均		R3学力レベル平均		主体的・対話的で深い学びの実施
			国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	
		埼玉県平均	58.7	58.9	2.1	2.2	19.9	18.5	17.8	16.3	-1.2
5	1	29	62.5	52.6	3.3	2.7	22.5	21.4	19.3	18.7	0.3
5	2	30	68.8	54.5	3.4	2.0	21.8	19.2	18.4	17.1	-0.9
5	3	30	57.9	61.9	1.7	3.4	20.5	20.7	18.7	17.3	0.1

前年度の学級で
並べ替えてあります！

【例】1組は、ベテランの担任が担当クラスの学力等を順調に学力伸ばしている。
 ⇒学級経営に定評のある担任が、他の2人へ学級経営のノウハウを共有

【例】2組は国語、3組は算数の指導で大きく成果を上げている。
 ⇒担任の教科専門性が高いことが考えられるので、得意な教科のよい指導方法を共有

※【帳票42】は、今年度の児童生徒の調査結果を、前年度の学級に戻して集計した帳票です。本年度の調査結果を前年度の指導の成果として検証することができます。特に、中学1年生の調査結果については、出身小学校の6年生の学級に戻し、小学校にデータを返却しています。これにより、小学校6年生のときの学級での指導を検証することができます。また、学習方略や非認知能力等の伸びも検証することができます。

	R3→R4(変化量)									
	主体的・対話的で深い学びの実施	学習方略						非認知能力		
		柔軟な方略	プランニング方略	作業方略	人的リソース方略	認知的方略	努力調整方略	動機性(参考値)		
学校平均	-0.2	0.0	-0.1	-0.2	-	-0.2	-0.1	-	1.0	-
市町村平均	0.3	0.2	0.0	0.2	-	0.6	0.3	-	0.9	-
埼玉県平均	-0.4	0.1	0.1	0.0	-	0.4	0.2	-	0.0	-

1 担当からの聞き取りや、授業参観により、よい取組を把握します。

【方法例① 担当からの聞き取り】

- 前年度、伸びている学年、教科を担当した教員から、学年全体や教科指導で取り組んだことや、共通して実践した指導方法、指導のポイント等の聞き取りを行う。

＜聞き取り例＞

- ・ 子供たちと接するとき、心がけていること（前向きな言葉かけ、一緒に遊ぶ等）
- ・ 授業の導入場面での工夫（興味をもたせる導入、めあて・見通しのもたせ方等）
- ・ 授業の展開場面での工夫（言語活動の充実、ペア・グループ活動の設定等）
- ・ 授業の終末場面での工夫（まとめの仕方、振り返りの充実等）
- ・ 学年で指導を徹底した取組（規律ある態度の指導、ノート指導、掲示物の工夫等）
- ・ 家庭学習の与え方（目安の時間の設定、チェックシートの活用、予習・復習等）

聞き取りの
ポイント

- ・ 上記の例を参考に、より具体的に、詳細を聞き取ってください。
- ・ 新たな取組や工夫した取組などにも着目して聞き取ってください。

【方法例② 授業参観】

- 前年度、学力等を伸ばした教員の授業を校内で参観する機会を設け、授業で見られたよい取組を把握する。

＜参観の視点の例＞

- ・ 主体的な学びを実現するための工夫
（学習目標や見通しのもたせ方、まとめと振り返りによる学習の定着等）
- ・ 対話的な学びを実現するための工夫
（互いの考えの比較検討の工夫、教師と子供・子供同士の双方向の対話の実現等）
- ・ 深い学びを実現するための工夫
（問題解決的・探究的な学習の実践、思考を深める発問や板書等）
- ・ 言語活動の充実（描写、要約、説明、記録、報告等を文章等でまとめる活動等）

参観の
ポイント

- ・ 授業後の協議が深まるよう、参観するポイントを示すなどの工夫をしてください。

2 「聞き取りの結果」や「授業参観の感想」等、分析結果を資料にまとめ、全体で協議、意見交換します。



校内研修例

協議例 1 どのような学力状況にある子供を重点的に伸ばしていくか。

- 学力が下位で、伸び悩んでいる子供を伸ばしたい。
- 「自分の考えを書くことが苦手」で、伸び悩んでいる子供を伸ばしたい。
- 伸びている子供を、もっと伸ばしたい。
(例えば伸びが著しい子供が中位層に集中している学校など)

協議例 2 学年（学校）として、どのようにして伸ばしていくか。

- 効果的と思われる取組を学年（学校）に広げたい。
- 学校の強みとして表れている項目を地域・保護者に広めたい。

3 仮説を設定し、それに基づく取組、検証を行います。

- 協議、意見交換を経て仮説を設定し、それに基づいた効果的な取組を共有します。
- 取組を実践し、効果について検証を行います。

● 学年（学校）、教員独自の**仮説を設定**し、仮説に基づく取組、検証を行う。

<仮説>（協議・意見交換により設定）

例「授業などで、自分の考えを、理由を付けて発表したり書いたりする機会を増やすことで、学力が伸びる子供たちが増える。」

<重点項目>（本校の実態及び協議・意見交換から設定）

例 ① 学力の階層が低い子供へのきめ細かな指導を行う。

② 授業規律を大切にする。

※ 上記①②は全教員で重点化して取り組む。

その他

分析支援プログラムを活用し、さらに課題を見つけ改善を図る。

活用例① 「質問紙調査」と「学力の伸び」を視点とした分析
——「どのような児童生徒が学力を伸ばしているのか？」——

手順1 「①クロス集計（「学力の伸び」の階層と児童生徒質問紙の項目）」のシートを開く。

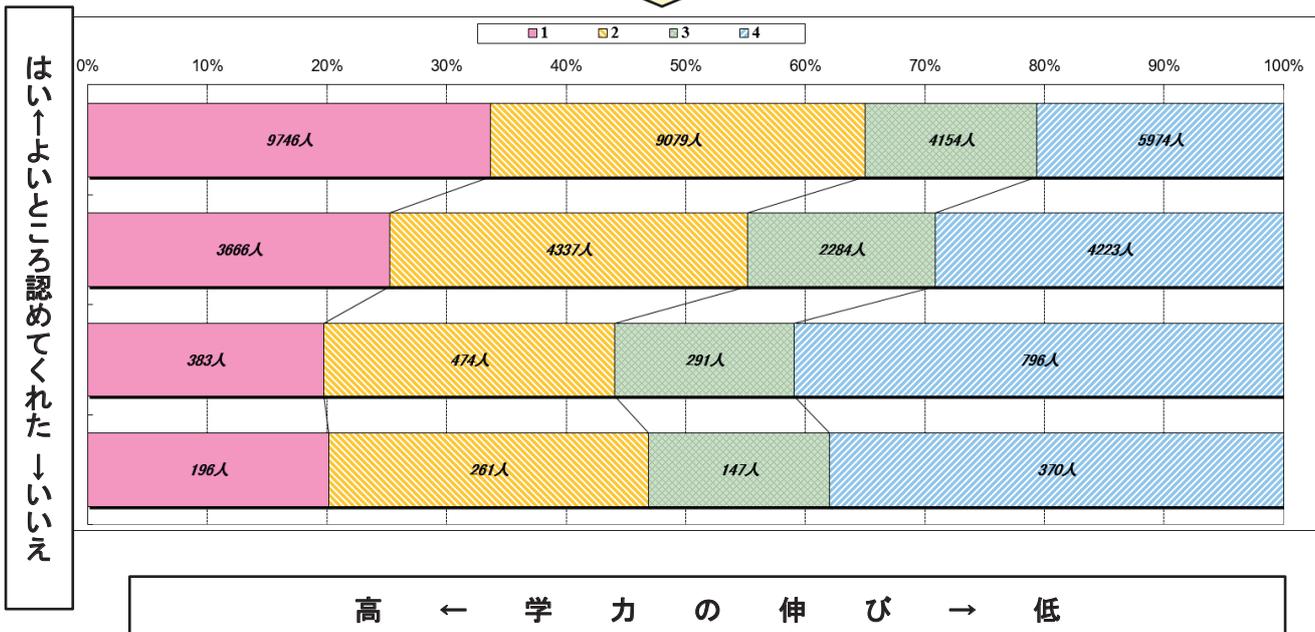
手順2 縦軸カテゴリーで質問紙調査の項目を選ぶ。

横軸カテゴリーは学力の伸び、教科を選ぶ。

縦軸カテゴリー⇒ 質問《（小5）学校の先生たちは自分のよいところをみとめてくれましたか》

横軸カテゴリー⇒ 学力階層_国語

フルダウンで選択するだけでクロス集計の帯グラフが出来ます！



上の帯グラフは、「(前年度の)学級で学校の先生たちは自分のよいところをみとめてくれましたか」と「国語の学力の伸び」のクロス集計です。

※上の例は、令和4年度小学校第6学年（全県）のデータを読み込んだものです。今年度の各学校のデータから分析し、学校の実態に合った有効な取組を検討しましょう。

※「分析支援プログラム」は、結果帳票のCD-ROMにデータで入っています。

※詳細な操作については、「活用マニュアル」を参照してください。活用マニュアルも、結果帳票のCD-ROMに「小（中）学校用_分析支援プログラム活用マニュアル」というファイル名で入っています。

活用例②

「他項目との関連の強さ」を視点とした分析

——「学校として何に取り組むのが有効か？」——

埼玉県学力・学習状況調査分析支援プログラム<小学校6年生 関連探索>

探索項目⇒ 算数【領域等】《量と測定》成績階層

プルダウンで選択するだけで相関係数のリストが出ます！

手順1 「④関連探索」のシートを開く。

手順2 探索項目を選ぶ。

探索項目(相関係数が高い順に表示)	相関係数
算数【観点】《知識・技能》成績階層	強く関連 0.850
算数【領域等】《数と計算》成績階層	やや強く関連 0.704
算数【領域等】《データの活用》成績階層	やや弱く関連 0.583
国語【観点】《知識・技能》成績階層	やや弱く関連 0.571
算数【領域等】《変化と関係》成績階層	やや弱く関連 0.566
算数【観点】《思考・判断・表現》成績階層	やや弱く関連 0.565
国語【領域等】《言葉の特徴や使い方》成績階層	やや弱く関連 0.550
国語【観点】《思考・判断・表現》成績階層	やや弱く関連 0.545
国語【領域等】《読むこと》成績階層	やや弱く関連 0.512
国語【領域等】《話すこと・聞くこと、書くこと》成績階層	0.457
国語【領域等】《情報の扱い方、我が国の言語文化》成績階層	0.395
質問《しょう来どの学校まで進みたいと思いますか》	0.290
質問《(小5算数)授業で学んだことが、以前に学習した知識とつながったこと》	0.230
質問《土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習じゅくで勉強している時間や家庭教師に教えている時間も入り)	0.215
質問《学校の授業時間以外に、ふたん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習じゅくで勉強している時間や家庭教師に)	0.211

- ・相関係数が0.8以上のときは **強く関連**
- ・相関係数が0.7以上のときは **やや強く関連**
- ・相関係数が0.5以上のときは **やや弱く関連** と表示が出ます。
- ・相関係数が0未満のときは 相関係数の値が**赤字**で表記されます。

上の例は、探索項目に「算数【領域等】《量と測定》成績階層」を選択したものです。多くの項目と相関関係が出ています。

※上の例は、令和4年度小学校第6学年(全県)のデータを読み込んだものです。今年度の各学校のデータから分析し、学校の実態に合った有効な取組を検討しましょう。

※「分析支援プログラム」は、結果帳票のCD-ROMにデータが入っています。

※詳細な操作については、「活用マニュアル」を参照してください。活用マニュアルも、結果帳票のCD-ROMに「小(中)学校用_分析支援プログラム活用マニュアル」というファイル名が入っています。

3 調査結果の分析・活用について②（学級担任用）

事務連絡（令和4年8月22日付け）

学級担任用

令和4年度埼玉県学力・学習状況調査

調査結果の分析・活用について



本調査は、本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進することを目的としています。

各学級担任の先生方にも調査結果から、①学級の児童生徒の実態を把握し、②分析を行うことで課題等を踏まえた③仮説を設定し、その仮説に基づく取組によって④検証を行うといった確かな学力の育成に向けたPDCAサイクルの確立につなげていただけたらと考えています。

県教育委員会では、学級担任の先生方に向けた分析・活用の例を作成しました。学級担任の先生方が本調査から児童生徒の実態を多面的に把握し、個に応じた指導の充実につながるよう御活用ください。

分析・活用の手順

分析

○ 児童生徒一人一人の状態を学力の伸び等から把握する。

→【帳票40】

- ・ 学年、学級の児童生徒一人一人の学力レベル、伸び、学習方略、非認知の値が一覧で示されています。
- ・ 児童生徒一人一人の学力の伸び等の値を県平均や学年平均、学級平均と比較したり、昨年度との変化量を見たりして、気になる（学力や学習方略、非認知能力の数値に課題があると考え）児童生徒を確認します。

活用

○ 気になる児童生徒に対して、どのような手立てや方策をとるか考える。

- ・ 気になる児童生徒の要因分析等をして、支援の仕方を学年等で検討し、効果的な手立てや方策などの取組を模索します。

参考

色付け等をする、児童生徒一人一人の実態が分析しやすくなります。

- ・ 【帳票40】のデータをコピー&ペーストすることで、色付けができるファイルを添付してあります。必要に応じて御活用ください。

埼玉県教育委員会

【帳票40】を活用した分析

分析

児童生徒一人一人の状態を学力の伸び等から把握する。

- 【帳票40】「学力分析データ（学力レベル・伸び・学習方略・非認知）児童生徒別」から児童生徒一人一人の状態を捉える。

40 学校用

令和4年度埼玉県学力・学習状況調査(小学校6年生)
学力分析データ(学力レベル・伸び・学習方略・非認知)児童生徒別
 ●●市立▲▲小学校

縦に見ることで、伸びや変化量から気になる児童生徒を見つけられることができる。

学年	性別	国語				算数・数学				R3→R4(変化量)						R4結果											
		昨年度か の伸び	昨年度か の伸び	昨年度か の伸び	昨年度か の伸び	主体的・対 話的 学びの 実践	主体的・対 話的 学びの 実践	主体的・対 話的 学びの 実践	主体的・対 話的 学びの 実践	学習方略	学習方略	学習方略	学習方略	非認知能力	非認知能力	非認知能力	非認知能力	主体的・対 話的 学びの 実践	主体的・対 話的 学びの 実践	主体的・対 話的 学びの 実践	主体的・対 話的 学びの 実践						
学	平均	8-C	3	7-C	7-A	2	7-C	-0.2	0.0	-0.1	-0.2	-	0.0	-0.1	-	-0.2	-	3.9	3.6	3.7	3.3	-	4.0	4.1	3.5	3.8	-
市	平均	7-A	3	6-A	7-C	2	6-B	0.0	0.0	0.1	-0.1	-	0.0	0.0	-	0.0	-	4.0	3.5	3.6	3.3	-	3.9	4.1	3.3	3.8	-
校	平均	7-A	3	6-A	6-A	1	6-B	0.0	0.1	0.1	0.0	-	0.1	0.0	-	0.0	-	4.0	3.5	3.6	3.3	-	3.8	3.9	3.3	3.8	-
		7-B	-4	8-A	9-A	3	8-A	-0.3	0.3	0.0	0.3	-	0.0	0.0	-	-0.1	-	3.6	4.5	4.5	4.3	-	4.0	5.0	3.4	4.3	-
		9-B	6	7-B	6-A	2	6-C	0.7	0.5	1.5	-1.3	-	0.5	-1.0	-	0.3	-	4.8	3.8	4.3	2.5	-	4.3	3.3	3.1	4.0	-
		8-B	8	5-A	6-C	-3	7-C	-0.6	-0.3	0.0	-0.3	-	0.5	-0.3	-	0.0	-	3.5	3.0	2.8	3.3	-	4.0	3.0	4.0	3.4	-

横に見ることで、気になる（学力や学習方略、非認知能力の数値に課題があると考える）児童生徒の学力レベル・伸び・学習方略・非認知の状況が把握できる。

【分析】学力レベル・伸び・学習方略・非認知の数値から気になる児童生徒を見付けたり、状態を把握したりする。

- 【例】
- ・ 学力レベルが国語（算数または両教科とも）で、県平均より高い（低い）児童生徒がいる。
 - ・ 学力レベルが国語（算数または両教科とも）で、大きく伸びた（伸び悩んだ）児童生徒がいる。
 - ・ 学習方略や非認知能力が、県平均より高い（低い）児童生徒がいる。
 - ・ 学習方略や非認知能力の変化量が、大きい児童生徒がいる。

【活用】分析で把握した気になる児童生徒が、そのような状態になっている要因等について吟味し、支援する。

- 【例】
- ・ 先生御自身の経験から、普段の授業の様子で把握していた実態と県学調の結果で見られた数値を比較して要因等について吟味する。
 - ・ 学力に課題がある数名の児童生徒をピックアップし、学習方略や非認知能力の数値を確認し、要因等について吟味する。
 - ・ 学力等を順調に伸ばしている教員や教科指導で大きく成果を上げている教員の効果的な取組を共有する。
 - ・ 過去に県が取り組んだ学力向上事業や県学調の報告書、県学調活用リーフレットに書かれている事例を参考にして課題に応じて取り組んでみる。

【重要】
昨年度との変更点

学力と正の相関がある「自己効力感」を全学年で調査

令和3年度まで	令和4年度から
非認知能力	非認知能力
動機性 (参考値)	自己効力感 (参考値)
- 4.0 -	3.5 3.8 -
- 3.9 -	3.3 3.8 -

令和4年度から、学力との関係でより強い正の相関関係が明らかになっている自己効力感を全学年で調査するようにし、自己効力感を調査していた小5・中2に「向社会性(相手の気持ちを考えるなど)」を加えました。これからは、学力の向上につながるのがある非認知能力について「自己効力感と学年固有の項目」を確認できます。

※令和3・4年度の方非認知能力のスコアは一部参考値となっております。

【参考】以下の実施マニュアルにしたがって、帳票40を色付けすると状況が見やすくなります。

ビフォー（色付け前）

アフター（色付け後）



埼玉県学力学習状況調査 帳票40色分けアレンジ 実施マニュアル

1 Excelシート【帳票40コピー】を開く。



2 分析したい帳票40（原本）を開く。

① 赤い四角①で囲んだ部分をクリックして全選択 ⇒ コピー

3 1で開いたExcelシート【帳票40コピー】を開く。

赤い四角①で囲んだ部分をクリックして全選択 ⇒ 貼り付け

4 シート【クラス名簿コピー】にクラス名簿（学校保管）をコピーする。



5 印刷帳票に反映される。

※出席番号の重複・未記入等で反映にずれが生じる可能性あり。

⇒対応策：貼り付けたシート【帳票40コピー】で直接確認して修正してください。

② 印刷帳票①

6 印刷ボタン（赤い四角①で囲んだ部分）をクリックすることで印刷可能です。

4 まずは、この帳票から！

事務連絡（令和4年8月22日付け）

学校担当者用

埼玉県学力・学習状況調査

まずは、この帳票から！



本シートでは、各学校における分析等が効率的且つ円滑に行えるように、活用をおすすめする帳票を4つ紹介しています。是非、参考にしてください。

学級担任の先生におすすめ！ → 帳票40

一人一人の様々な結果データの一覧です。学年、学級ごとにデータがまとめられています！

学年主任の先生におすすめ！ → 帳票28

学年全体の学力レベルの変化や学力の伸びの状況等が教科ごとに、グラフの形でまとめられています。

グラフ化

教科担当の先生におすすめ！ → 帳票09

各教科の領域ごとの正答率、設問ごとの正答率・無回答率や難易度について知ることができます。

※上記帳票28においてグラフ化する前の数値です。

今後の学校の取組におすすめ！ → 帳票33

学力を伸ばした児童生徒の割合、学力レベルの伸びの平均が分かります。「よい取組」等を共有するきっかけづくりとなります。

埼玉県教育委員会

5 埼玉県学力・学習状況調査を活用した実践事例

「コバトンのびのびシート」を活用して、学力に課題のある児童生徒について学力や学習の状況を把握し、効果的な指導方法を話し合い、共有し、日頃の指導に生かす。

【A小学校の例】

コバトンのびのびシート

【年・組・氏名】 6年2組9番 増玉 〇〇

年度	正答率	レベル	伸び	実力テスト(国語)		実力テスト(算数)	
				国語	算数	国語	算数
R04	76.7	8-B	3 (2)	80.0	100.0	60.0	75.0
R04	87.5	8-A	3 (1)	92.3	75.0	100.0	83.3

項目	内容	伸び	変化
主体的・対話的で深い学びができていたか		4.2	-0.8
柔軟的方略	学習の進め方を自分の状況に合わせて柔軟に変えていく活動	4.0	0.3
プランニング方略	計画的に学習に取り組む活動	3.0	-1.0
作業方略	ノートに思いやり、声に出したりといった作業を中心とした学習を進める活動	4.0	0.5
認知的方略	より自分の理解度を深めるような学習活動	3.8	-1.0
努力調整方略	「苦手」等の感情をコントロールして学習の意欲を高める活動	4.5	-0.5
※自己効力感	自分はそれができると期待や自信	3.4	0.0
※動機性	やるべきことをきちんとやる力が	3.4	-0.8

学習方略と非認知能力の変化

学力レベルの変化

内容(特筆すべき質問項目を記入)	R04
勉強するときは、内容を讀んでいるか考える	あまり当てはまらない
勉強しているときに、やった内容を覚えていかどうかを確認する	少し当てはまる
勉強のやり方が、自分に合っているかどうかを考えながら勉強する	どちらともいえない
勉強していて大切だと感じたところは、書かなくてもノートにまとめる	少し当てはまる

国語	算数
<input type="checkbox"/> 国語の特色や使い方 <input type="checkbox"/> 情報の採り方、我が国の異文化 <input type="checkbox"/> 読むこと <input type="checkbox"/> 読むこと <input type="checkbox"/> 算数 <input type="checkbox"/> 算数と関係 <input type="checkbox"/> データの活用	<input type="checkbox"/> グループなどの話し合い活動時に積極的に発言する <input type="checkbox"/> 最後まで粘り強く取り組む <input type="checkbox"/> はいと返事をやる <input type="checkbox"/> 人の話をしっかりと聞く <input type="checkbox"/> 提出物の期限を守る <input type="checkbox"/> 一人で集中して学習に取り組む <input type="checkbox"/> 学習で使うものを忘れずに用意する <input type="checkbox"/> 時間を守る

のびのびシートから先生の眩き

〇〇さん、話すこと・聞くこと、書くことの領域が弱いよね・・・どうしたらいいかしら？

研修会や普段の職員室で

〇〇さんの話すこと・聞くこと、書くことの領域を伸ばすにはどのような指導をしたらいいですか。

資料を提示しながら発表させる時は、資料のどこに着目してほしいのか説明を付け加えさせるといいよ。

私も、授業でそうしてみよう

スピーチメモを書くときに、簡単に説明したり、詳しく説明したりする部分を検討させるといいと思うよ。

場面や相手を意識して発表させるには、話す様子や聞き手を動画で撮影して、振り返るといいよ。

効果検証

- 例えば・・・
- 授業で行う小テストや単元テスト等の結果の分析
 - 次年度の県学調結果の分析
 - 全国学調結果の分析

授業で実践



のびのびシートへの記録と共有

大切なことは、教職員で、「コバトンのびのびシート」をもとに、よりよい指導方法について話し合いをして、それをみんなで共有することです。